

平成 29 年度厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）

「外因死の背景要因とその遺族への心のケアに関する研究」

分担研究報告書

自殺・不慮の事故等の要因分析と遺族支援における監察医務院の役割の提言

研究分担者 福永 龍繁（東京都監察医務院）

研究協力者 鈴木 秀人（東京都監察医務院）

引地和歌子（東京都監察医務院）

木村 聡子（東京都監察医務院）

谷藤 隆信（東京都監察医務院）

阿部 伸幸（東京都監察医務院）

柴田 幹良（東京都監察医務院）

研究要旨： 東京都監察医務院において取り扱う全ての異状死について、検案記録を活用し、外因死の背景要因の解析を行い、問題となる課題を抽出した。平成 28 年度においては、精神保健に関する要因に焦点を当て、課題整理を行った。平成 29 年度には、東京都監察医務院の検案記録を調査し、外因死の内訳とその問題点の抽出と解析を行った。平成 27 年に東京都 23 区内で発生したすべての異状死 13,425 件のうち、病死以外の外因死及び不詳の死は 4,252 件であり、当院以外で司法解剖等に付された例を除くと、その内訳は災害死 1,079 件、自殺 1,638 件、その他 1,131 件であった。これらのうち、最も政策提言に有効な内容を抽出し、(1) 薬毒物による自殺、不慮の事故死、(2) 妊産褥婦死亡、(3) 若年者の自殺、(4) 異状死として取り扱われた生活困窮者の死因、(4) 防ぐことのできる死亡（熱中症、浴槽内死亡等）について、調査結果を監察医務院ホームページにその一部を公開した。さらに、遺族等の支援への連携として、検案・解剖後に行った遺族面談の内容に関する詳細な調査を行い、遺族の持つ心情について、怒り、不信感などの感情の変化について解析した。

A. 研究目的

東京都 23 区における全ての異状死と取り扱う監察医務院の検案結果に基づき外因死の検案結果に基づき、その背景を解析することにより、精神保健的・社会的要因を明らかにし、もって防ぐことのできる死亡を防ぐ対策につなげ、遺族等の支援に貢献することを目的とする。

B. 研究方法

東京都監察医務院の検案調書のなかで特に外因死について調査を行った。外因死には、不慮の中毒、窒息、溺水、交通事故等の外因死、自殺、他殺、そのいずれにも分類できないその他及び不詳の死が含まれる。昨年度は、その中から外因に関連し、かつ早急に精神保

健的遺族支援に必要な課題の抽出を行った。今年度はこれに基づき、検案記録を調査し、外因死の内訳とその問題点の抽出と解析を行った。

（倫理面への配慮）

本研究は、個人の特定のできないように配慮して遂行することにより、東京都監察医務院倫理委員会の承認を得た。

C. D. 研究結果

平成 27 年に東京都監察医務院において取り扱った東京都 23 区内で発生したすべての異状死 13,425 件のうち、病死以外の外因死及び不詳の死は 4,252 件であり、当院以外で司法解剖等に付された例を除くと、その内訳は

災害死 1,079 件, 自殺 1,638 件, その他 1,131 件であった。これらのうち, 最も政策提言に有効な内容を抽出し, (1) 薬毒物による自殺, 不慮の事故死, (2) 妊産褥婦死亡, (3) 若年者の自殺, (4) 異状死として取り扱われた生活困窮者の死因, (4) 防ぐことのできる死亡(熱中症, 浴槽内死亡等)について, 調査結果を監察医務院ホームページにその一部を公開 (<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kansatsu/index.html>) すると共に学術発表を行った。さらに, 遺族等の支援への連携として, 検案・解剖後に行った遺族面談の内容に関する詳細な調査を行い, 遺族の持つ心情について, 怒り, 不信感などの感情の変化について解析した。

E. 結論

異状死として取り扱われ, 監察医務院の検案対象となる事例には, その実態から背景を詳細に調査することにより, 防ぐことのできる死亡が多く含まれる。得られた成果を広く社会に還元し, 予防医学, 公衆衛生の向上に貢献することが重要である。

F. 健康危険情報

特になし。

G. 研究発表

1. 論文発表

- (1) Suzuki H, Tanifuji T, Abe N, Fukunaga T. The demographic characteristics of medicolegal death among welfare recipients in Tokyo Metropolis (2008-2013). *Med Sci Law*. 2017 Apr; 57(2): 53-60.
- (2) Fujimori M, Hikiji W, Tanifuji T, Suzuki H, Takeshima T, Matsumoto T, Yamauchi T, Kawano K, Fukunaga T. Characteristics of cancer patients who died by suicide in the Tokyo metropolitan area. *Jpn J Clin Oncol*. 2017

May 1; 47(5): 458-462.

(3) Kubo SI, Waters B, Hara K, Fukunaga T, Ikematsu K. A report of novel psychoactive substances in forensic autopsy cases and a review of fatal cases in the literature. *Leg Med (Tokyo)*. 2017 May; 26: 79-85.

(4) Mishima S, Suzuki H, Fukunaga T, Nishitani Y. Postmortem computed tomography findings in cases of bath-related death: Applicability and limitation in forensic practice. *Forensic Sci Int*. 2017 Dec 2; 282: 195-203.

(5) 谷藤隆信, 奥村泰之, 金涌佳雅, 津田和彦, 鈴木秀人, 引地和歌子, 阿部伸幸, 福永龍繁. 東京都 23 区における入浴関連死の調査. *厚生の指標* 2017 Jan; 64(1): 1-6.

2. 学会発表

- (1) 福永龍繁. 監察医務院からみたアルコール・薬物問題. (教育講演 3) 平成 29 年度アルコール・薬物依存関連学会, 第 52 回アルコール・アディクション医学会学術総会. 2017.9.-8, 横浜市. 要旨: 日本アルコール・薬物医学会雑誌 2017 Aug; 52(4): 92.
- (2) 引地和歌子. 妊産褥婦の自殺の実態. シンポジウム 1「子育て女性のメンタルヘルスを守れ!」第 58 回日本母性衛生学会・学術集会 2017.10.6, 神戸市.

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む。)

1. 特許取得

なし。

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし